

【小施策評価(令和元年度実績評価)】

小施策の総合計画における位置付け

基本目標	4	人が集い活力を生むまちづくり	小施策 主管課等	文化国際課	
施策	28	国際化の推進	評価 責任者	下田 法子	内線 3710
小施策	28-1	国際交流の推進	評価 シート 作成者	齋藤 克幸	内線 3711

小施策の概要

現状と課題(総合計画実施計画から転記)	取組の方向性(総合計画実施計画から転記)
国籍や文化などの違いに関わらず、すべての市民がお互いの文化的背景や考え方を理解し、共に暮らし支え合う地域社会の実現に向けて、(公財)盛岡国際交流協会をはじめとする民間団体と協働で国際相互理解と国際友好親善の促進を図っていく必要がある。また、東京2020オリンピック・パラリンピックのホストタウンとして登録されたカナダとの交流事業の機運醸成を図る必要がある。	市民の国際理解を深めて国際感覚を養うとともに、市民主体の国際交流活動の支援を行うことにより、国籍や文化の違いを越えた相互理解に対する市民意識の醸成を図りながら、地域社会で共に暮らす外国人の支援体制の充実につなげる。
対象(誰(何)を対象として行うのか)	意図(具体的に対象をどのような状態にしたいのか/対象+成功状態)
市民, 外国籍市民	国籍や民族,文化など異なる人々が互いの違いを認め合い、共に生きていこうとすることにより、相互理解が図られる。

小施策の成果指標の達成状況・評価(令和元年度実績)

実績値の推移				実績の評価	
指標	単位	目指す方向	成果点	成果の要因分析	問題点
指標① まちづくりアンケート調査「この一年間に国際交流に参加したことがある」と答えた市民の割合	%	↗	<p>・市民の割合は平成30年度と比べ0.1ポイント上昇した。</p> <p>・当初値と比較すると1.0ポイント上昇しており、増加傾向を維持している。</p>	<p>・ホストタウンの取組として、平成30年度から引き続き、カナダ国の選手が来盛し、市内で国際交流の機会を提供したほか、新たにマリ共和国とホストタウン協定を結んだことで、市民の国際交流の関心を高めることができた。</p> <p>・盛岡国際交流協会が実施している各種講座やイベントは概ね募集定員を満たした開催となっているほか、ホストタウンの取組と関連して、実際に選手と触れ合う機会を提供した。</p>	
当初値 (H25) 2.6	R1目標値 3.8	R6目標値 5.0			
指標② 盛岡国際交流協会賛助会員数(個人)	人	↗	<p>・平成30年度と比べ8口増加した。</p>	<p>・賛助会員には、盛岡国際交流協会の機関紙や各種講座の開催案内を送付するほか、講座の受講料の割引や申込の優先などのメリットを設けているため。</p> <p>・各種講座参加者に対し、新規加入の勧誘を行っているため、集客力の高いイベントを実施することで、賛助会員増加の機会を増やすことができる。</p>	
当初値 (H25) 126	R1目標値 132	R6目標値 139			
指標③ 盛岡国際交流協会賛助会員数(団体)	団体	↗	<p>・特になし</p>	<p>・特になし</p>	
当初値 (H25) 19	R1目標値 28	R6目標値 38			
			<p>・令和元年度目標値を達成できなかった。</p>	<p>・盛岡国際交流協会の国際交流事業は概ね募集定員を満たした開催となったが、依然として国際交流に関心のある市民以外の参加が少なく、一定の値を超える結果とならなかったと思われる。</p> <p>・国際交流の機会提供の増加に加え、国際交流に関心のない層を取り入れる事業展開を検討する必要がある。</p>	
			<p>・1年更新であり、国際交流協会のイベント参加者に加入を呼びかけても、年度ごとの会員となってしまう継続的な会員数の増加が見込めない。</p>	<p>・国際交流協会のイベントに積極的に参加する人以外へのメリットが少ない。よって、継続的に賛助会員に申し込む人が少ない。</p> <p>・国際交流協会の活動が広く市民に認知されていない。</p>	
			<p>・平成30年度と比べ3口減少した。</p>	<p>・団体賛助会員を随時受け付けているが、盛岡国際交流協会の認知度が低く、活動内容や賛助会員の募集についても認識されていないと思われる。</p> <p>・団体賛助会員を継続加入することの利点が少ないと判断されたと思われる。</p>	

今後の方向性(令和2年度以降)

評価を踏まえた取組の方向性	<p>★…R2年度着手済または着手予定</p> <p>☆…R3年度以降の着手を検討</p>
	<p>★☆1 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会や、盛岡市・ビクトリア市姉妹都市提携35周年記念事業など、規模の大きいイベントを契機として、国際交流の機会を提供することで市民の国際感覚の醸成を図る。</p> <p>★ 全国的に外国籍市民が増加すると予想される中、庁内で多文化共生プロジェクトチームを編成し、多文化共生・理解を促進し、市内で暮らす外国籍市民の生活支援となる取組について検討する。</p>
	<p>★ 盛岡市・ビクトリア市姉妹都市提携35周年を記念して、特典を増やすことで賛助会員の増加を図る。</p> <p>★ 平成30年度にリニューアルしたホームページを活用し、盛岡国際交流協会の活動の周知を図るほか、InstagramやFacebook等のSNSを頻繁に更新することで、多くの市民の目に触れる機会を作る。</p>
	<p>★ 盛岡市・ビクトリア市姉妹都市提携35周年を記念して、特典を増やすことで賛助会員の増加を図ったほか、市内国際交流関係団体、広告、イベント業者等に幅広く賛助会員募集のお知らせをしたことで、新規2団体から加入があった。</p> <p>★ 平成30年度にリニューアルしたホームページを活用し、盛岡国際交流協会の活動の周知を図るほか、InstagramやFacebook等のSNSを頻繁に更新することで、多くの市民の目に触れる機会を作る。</p> <p>★ 団体賛助会員向けサービスの充実など、団体賛助会員にとって、魅力のある事業展開と情報発信を検討する。</p>